

## 自己評価の点数には〈満点〉を記入しよう!!

対応のオプションは、大きく分けて完全無視と自己過大評価の2つです。しかし、無視したくてもデータベースから自動引用されるようなので中途半端で無残なことになるでしょう。ということで、自己過大評価しかないです。どうせ誰も褒めてくれないので、自分で褒めましょう。仕事ばかり増え、給料は減り続けていることの証拠作りです。点数は満点で、実績も些細

なことからコツコツと入力しましょう。しょうもないことを満載することで、調査の質を低下させることができます。データは蓄積されていくので、少しずつ増やしていけば良いです。最後に、調査票に律儀に入力した実績も忘れずに記載しましょう。

(K・K)



## 評価システムは、〈強欲資本主義〉と同じ？

教員評価問題を大きな視点からながめてみたい。この教員評価システムもそうだが、近年急速に広がってきた労働者への評価システムは結局のところ、「私利私欲」に訴えかけて労働生産性をさらに向上させるための仕掛けにすぎない。

ところが、組織の狭い論理ではなく、現代社会の構造に目を向けると、労働生産性の過剰によって失業（貧困・格差）が生まれているのであり、過剰な生産が環境に過剰な負荷を与え、自然資源を枯渇させつつある。

さらに、労働生産性を向上させるためのインセンティブが「私利私欲」に結びつけられることによって、人びとの連帯やつながりが断ち切れ、自分勝手や独りよがりが増えてきている。



また、労働生産性の桁違いの効率化と私利私欲に訴えるインセンティブを結びつけたのが、強欲資本主義とも呼ばれる金融資本主義ではなかったのか。

そして、いま多くの人びとはこのような世の中を何とか変えたいと思っているからこそ、この度の総選挙で（不安を抱えながらも）

「政権交代」を選んだのではないのか。

もしそうであれば、このような教員評価システムを今頃正式に導入する本学は、世の多くの人びとの願いに反旗を翻すだけではない。研究者の思考の枠組みに暗黙の縛りがかかることによって、よりよき社会を築くために既存のものにとらわれないチャレンジな

考え方を産み出す大学の責任さえ放棄しかかっているといえよう。(K・Y)

# 自己評価の指標は〈デタラメ〉です

悩みごとがあるので相談します。

教員評価の「自己評価」を入力しようと思っただのですが、どれを選んだらいいのか迷っています。

最上の「5」が「自らの見込みをはるかに上回っている」、「3」が「自らの見込み通りである」となっているのですが、これでは、きちんと計画を立て、その通りにきちんと仕事をやった人が「ふつう」で、「最初ぜんぜんやる気がなかったのだけど、仕事を押しつけられてテキストにこなした」人でも「とてもよい」になるのではないのでしょうか。

実は私は「研究」面では「見込みを下回った」のです。最初は研究をやる気満々で計画もきっちり立てたのですが、若いから使い易かったのでしょうか、学内の面倒な仕事をいろいろ押しつけられて、予定通りにはいきませんでした。でも必死にがんばって単著の研究論文をこの1年間で5本書いたのですよ。

これでも「2」か「1」にしかならないのかと思っていたら、「2」には「やや問題があり改善の余地がある」、「1」には「問題があり改善を要する」と書いてあってびっくりです。



だって、ぜんぜん論理が繋がっていないのですもの。

でももっと驚いたのは、「改善」の必要のある人が最低にランクされていたということ。自分の仕事に「改善の余地」のない人っているのでしょうか。

仕事のプロは自分の仕事に課題や改善点を見つけ、それを克服していくことで成長していくと聞いたことがあります。これでは自分の課題や改善点をきちんと自覚できるプロ意識の高い人は最低、自分の課題を見つけられない無能な人や自分の仕事はパーフェクトとうそぶく傲慢な人は最高、とっているようなものです。もうびっくりして声も出ません。サイコーがサイコーで、サイコーがサイター。なんだか頭がおかしくなりそうです。これではとても自己評価なんてできません。

ほかの人たちはどうしているんだろうと思って聞くと、あんな評価はデタラメなんだから、テキストに書いておけばいいんだよ、ってみんな言うんです。このままではもうだれも信じられなくなりそうです。どうしたらいいのでしょうか。（迷える子羊）

## 〈正直〉に生きていただけなのに・・・

エドワード・ヤングという18世紀のイギリス詩人はこのような一節を残しています。

At thirty a man suspects himself a fool;  
Knows it at forty, and reforms his plan;  
At fifty chides his infamous delay,  
Pushes his purpose to resolve;  
In all the magnanimity of thought  
Resolves; and re-resolves then dies; the same.  
(Night Thought)

人は齢三十にして、自分を愚者と疑う。  
四十にして、そうと知り、計画を立て直す。  
五十にして、恥ずべき遅延を責め、  
分別ある決意を、推進しようとする。  
寛大の精神を發揮して、  
決意し、再決意し、相変わることなく死ぬ。  
(『夜想詩』外山滋比古 訳)

まさに私の人生そのもの（まだ死んでいませんが）であり、近ごろ読み直してみても感動を覚ええました。大した人物になれないのなら、せめて正直に生きようと思いますが、最近「自己評価」という強敵が現れました。（A・W）



教職員評価問題に関して、皆様のご意見を組合までお寄せください。「自己評価の入力」と「教員評価等検討委員会への意見提出」の締切は9月末です。【投稿をお待ちしています】